

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立三養基高等学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	前年度より「SAGA 唯一無二の学校魅力化実践事業」の「SAGASマート・ラーニング(S S L)指定校」となった。学校関係者評価にもあるように、今後も地域や小学校・中学校などとの交流・連携をさらに図っていく必要がある。全体的には、取組によっては成果指標が達成できており、評価できる項目も多かった。引き続き継続していく取組とさらなる改善につなげる取組を精査する。また、各学年で家庭学習時間確保のために、課題の質の向上、生徒への意識付け、一人一台端末の活用等様々な工夫・改善が必要である。
---------------	---

2 学校教育目標	平和な国家及び社会に有為の人材を育成するため、校訓「質実剛健」のもと、自主自律の精神の涵養をとおして、知・徳・体の調和のとれた教育を目指す。平和な国家及び社会に有為の人材を育成するため、校訓「質実剛健」のもと、自主自律の精神の涵養をとおして、知・徳・体の調和のとれた教育を目指す。
----------	--

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 自主自律と相互尊重の精神を備えた生徒の育成 ② 授業の工夫・改善と家庭学習の充実による生徒の学力向上 ③ 自己有用感を高める活動の活性化 ④ 家庭、地域との連携及び学校の魅力づくりの推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目

評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○家庭学習の充実	○学校評価アンケートの「家庭学習の取組」の項目において、良い・ほぼ良いと回答する割合を、職員・生徒・保護者すべての割合を70%以上にする。 ○家庭学習(平日2時間以上)の生徒の割合を90%以上にする。	・完全下校の時間(19:20)を厳守させることで、帰宅後の学習時間の確保を図る。 ・日々の記録を用いて生徒の生活リズムを把握し、面談などを通して学習習慣の定着を図る。	B	・担任は面談や日々の記録を活用した生徒の把握をし、家庭学習の充実を図った。学校評価アンケートの「家庭学習の取組」の項目において、70%の生徒が「良い・ほぼ良い」。定期考査や模擬試験への取組の項目については、80%の生徒が「できた・ほぼできた」と良好である一方で、保護者や職員は約50%が家庭学習への取組状況について満足していない結果であった。	B	・課題の量で変化する家庭学習ではなく、学習に対するモチベーションの向上や主体性を育てるために、課題や授業の質を高める手立てが望まれる。
	○進路意識の啓発と進路希望の達成	○国公立大学合格者50名、近隣有名私立大学合格者100名を目指す。	・各学年で進路講演会を実施する。 ・進路検討会(3年2回)、教科担当委員会(3年1回、2年3回、1年3回)、出願検討会(3年1回)を実施し、職員間での情報共有と改善策の検討を行う。 ・大学入試研究報告会の実施。	A	・進路講演会(3年→生徒2回、2年→生徒1回)1年→生徒1回)、保護者(1回)実施。 ・進路検討会(3年2回)、教科担当委員会(3年1回、2年3回、1年2回)、出願検討会(3年1回)実施。 また、模試ごとに統計資料を配布している。職員間での情報共有と改善策の検討は十分に行われている。 ・大学入試研究報告会の実施。	A	・志望校への合格の要因について、検証し次年度の授業づくりに生かしてほしい。
	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の推進	○道徳教育全体計画及び人権・同和教育年間指導計画に基づいて授業や指導を行った教員の割合を90%以上にする。 ○学校評価アンケートの「人の役に立つ行動や集団の中での自分のあるべき姿を意識した行動ができた」と回答する生徒の割合を80%以上にする。	・各教科、特別活動、総合的な探究の時間、各種講演会、読書の時間、清掃活動などのボランティア活動、地域社会との関わりを深める取組など、あらゆる機会をとらえて心の教育を行う。	A	・特別活動や総合的な探究の時間を中心に、清掃活動などのボランティア活動、地域社会との関わりを深める地域課題研究(1年)、佐賀を誇りに思う講演会などで、生徒一人ひとりが自ら考え、友人と協力して積極的に取り組む姿勢がみられた。また、学校評価アンケートの「人の役に立つ行動」の項目では、80%の生徒が「できた・ほぼできた」と良好であった。	A	・地域課題研究でのフィールドワークや各種講演会での取り組みが実を結んでいる。地域について考える機会を設定していることが重要である。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートの「SNSの利用に伴う自分の心身の健康や病気にに対する予防や防犯の意識は高まりましたか」と回答する生徒の割合を95%以上にする。 ○学校評価アンケートの「いじめに対する対応をどう思うか」で良いと回答する生徒、保護者の割合を90%以上とする。	・防犯講話や集会等で注意喚起し、SNSの利用の危険性を示し、いじめ誘発等の原因や加害者とならなため予防的対応を行う。 ・いじめの発覚・認知について迅速に対応する。 ・いじめの対応について研修会を実施する。	A	・生徒のSNS利用における情報モラルについては、良い・ほぼ良いを合わせて96.5%となった。また、SNSにおけるトラブルも、モラルに対する意識の向上ができた。 ・いじめに対する対応についての、保護者の回答は、昨年同様、設問の意図を明確にしないと、「わからない」が44.7%あった。一方、生徒の回答結果は、良い・ほぼ良いを合わせて98.5%であり、早期発見・早期対応が組織的にできたと考えられる。	A	・各教科や学校行事などの特別活動のあらゆる機会を利用して「心の教育」を実施し実を結んでいる。特に、SNSでのいじめ問題が多く多発している今、三養基高校ではSNS関連のトラブルがないことは評価できる。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動の推進	◎「佐賀には誇れるところがある」と回答した生徒の割合を80%以上、「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらか」と回答したと回答した生徒の割合を70%以上にする。 ◎★郷土の人材を活用した講演会を年間1回は開催し、「講演会後のアンケート」で、「郷土の価値を再認識することができた」と回答した生徒の割合を90%以上にする。	・「さ」を誇りに思う教育推進事業」を利用して講師を招聘し、講演会を実施することで、郷土の価値の再認識につなげる。 ・年間を通して定期的に「佐賀語」を教える時間を「朝読書等の時間」に設け、総合的な探究の時間の地域課題研究と連携を図りながら佐賀の魅力について学ぶ。	A	・「ふるさとへの誇りや愛着に関するアンケート」で、「佐賀には誇れるところがある」と回答した生徒の割合が94%で、昨年より12パーセント上がった。また、「佐賀に誇りや愛着を感じている」と回答した生徒の割合も90%と高く、昨年より、21パーセント上昇した。 ・「将来佐賀に住みたい」と考えている生徒の割合は昨年度より11パーセント上昇し、51パーセントを占めた。しかし、佐賀を誇りに思っているが、進学や就職となる果敢志向に悩まざるを得ない状況が続いている。地域課題研究においても郷土に関する課題や解決策などの調査に積極的に取り組む姿勢がみられるようになった。	A	・地域の活動では、高齢者が主体となって取り組んでいるが、いずれは高校生などの若い世代が企画、運営を担っていくことが求められる。
	●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「平均睡眠時間6時間以上」の生徒の割合を70%以上にする。 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合を80%以上にする。 ○生徒の朝食摂取率を90%以上にする。 ○エネルギーや水・紙などの使用量削減の意識を持っている生徒の割合を90%以上にする。	・「保健・食育だより」の発行。 ・担任及び保健委員を中心とした委員会からHRでの声かけの実施。 ・保健推進委員会への個別指導。 ・ICTの積極的活用	A	・平日の睡眠時間は6時間以上が60%で休日は85%であった。60%は睡眠時間に満足できていないが、睡眠時間と健康を関連させるならば、保健推進委員会が主体となって取り組むことができた。 ・朝食は85%の生徒が毎日昼食を食べており、食事のバランス等も意識している生徒数も20%増加させることができた。 ・「保健だより」を毎月発行して、目を通している生徒を75%に増加させることができた。	A
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を毎週月曜日に設定する。 ・部活動休業日は、年間平均週2日確保する。 ・持続可能な観点から、校務分掌での業務のスリム化、効率化を図る。	A	・時間外勤務の月平均が、昨年度より、約4時間減少した。定時退勤日を設定したことで、職員の勤務時間に対する意識が変化していることが要因の1つとして考えられる。 ・部活動の週当たりの休日は、年間平均で運動部が2.3日、文化部が5.5日であり、年間を通じた計画的な運用ができている。 ・職員朝礼の実施回数を減らすなど、業務のスリム化に努めた。	A	・学校評価アンケートで職員の自由記述に「働き方改革の観点から業務効率化の意識が少しずつついている気がする」とあったり、運動部の週当たりの休日が2.3日であったり、着実に働き方改革が推進されている。ただし、職員を風土化させることがないような職場であってほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
★唯一無二の誇り高き学校の魅力づくり	★学校の魅力づくりの体制を強化	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を78%、教職員の割合を85%以上にする。	・地域との交流を通してボランティア等を充実させる。 ・積極的、効果的な広報活動や情報発信を行う。 ・学校魅力化強化委員会や外部委員を交えた取組を検討する。 ・生徒が主体的に関わり活躍できる学校行事を企画、運営する。	A	・SSL事業も2年目となり、初年度より計画的に活動できるようになった。また、町の積極的な協力も得られ、意欲があつても活動につながらなかったものが、具体的な個々の活動につながっていた。 ・広報活動もSNSの面ではまだ十分とはいえないが、従来の広報活動は前年度より多く発信できた。 ・中断していた海外人材派遣事業の再開のめどをつけることができた。 ・「中学生へ入学を勧めたい」と感じている職員は93.4%、生徒で84.1%であった。 ・生徒会の意見を反映させながら、学校祭の合唱コンクール運営や制服選定の検討を進めた。	A	・今後も学校魅力強化強化委員会を機能させ、落ち着いた教育環境、文武両道を求める教育活動、心の教育に邁進する三養基高校の魅力を発信してほしい。その意味で、学校ホームページへの閲覧率が50%を切っており多くの人が学校ホームページを閲覧するような工夫が必要である。

5 総合評価・次年度への展望	<p>取組によっては成果指標が達成できており、評価できる項目が多かったが、本校の課題がより明確に把握できるように成果指標を改善していく。</p> <p>・SAGA 唯一無二の学校魅力化実践事業の「SAGASマート・ラーニング指定校」での取組を拡充させ、町と学校の距離を縮めた。次年度は、さらに地域との関りを深め、SNSを活用した広報活動を充実させていく。</p> <p>・家庭学習を充実させるためには、学習意欲の向上や主体性を育むことを目指して、課題や授業の質を高めていく。</p>
----------------	---